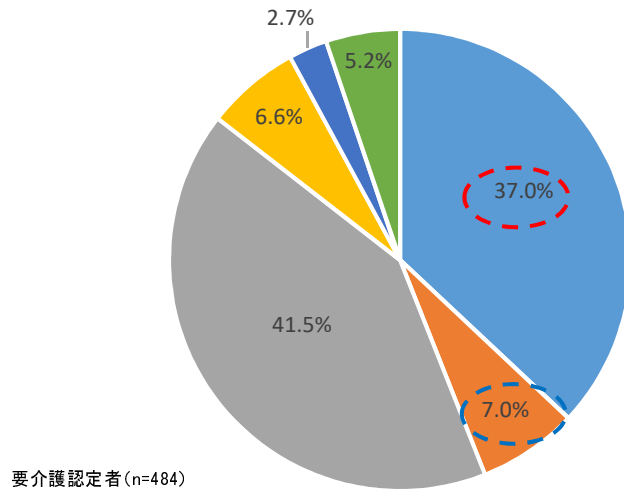


## VII-②介護給付の問題点

## [要介護度の変化（要介護認定者）]

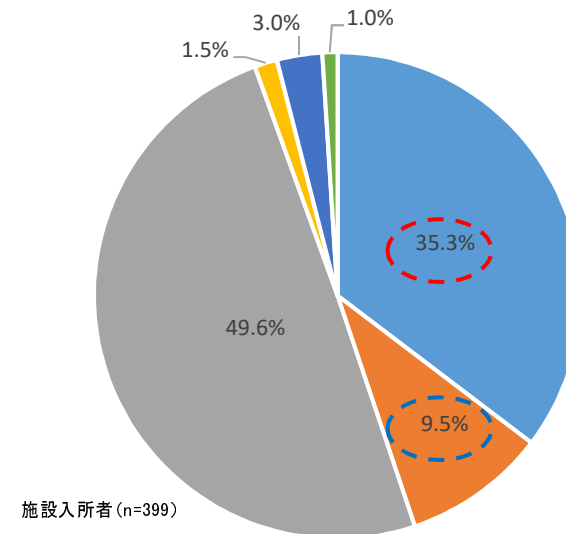
- 「現在のほうが要介護度は上がっている（悪くなっている）」が37.0%で、約4割を占める。
- 一方、「現在のほうが要介護度は下がっている（良くなっている）」は7.0%で、1割未満にとどまる。



- 現在のほうが要介護度は上がっている（悪くなっている）
- 現在のほうが要介護度は下がっている（良くなっている）
- 同じ要介護度である
- 1年前は認定を受けていない
- わからない
- 無回答

## [要介護度の変化（施設入所者）]

- 「現在のほうが要介護度は上がっている（悪くなっている）」が35.5%で、3割以上を占める。
- 一方、「現在のほうが要介護度は下がっている（良くなっている）」は9.5%で、1割未満にとどまる。

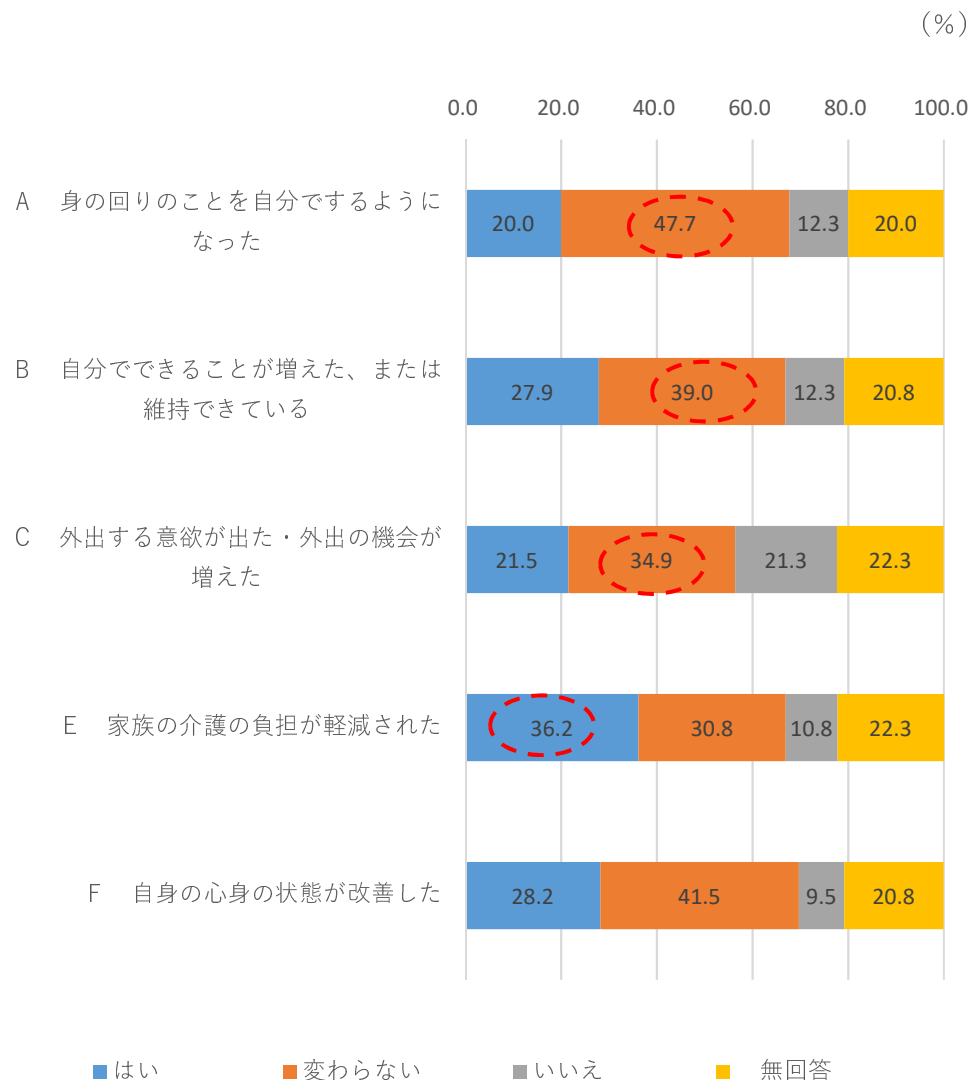


- 現在のほうが要介護度は上がっている（悪くなっている）
- 現在のほうが要介護度は下がっている（良くなっている）
- 同じ要介護度である
- 1年前は認定を受けていない
- わからない
- 無回答

※調査結果を基に長寿社会課においてグラフを作成

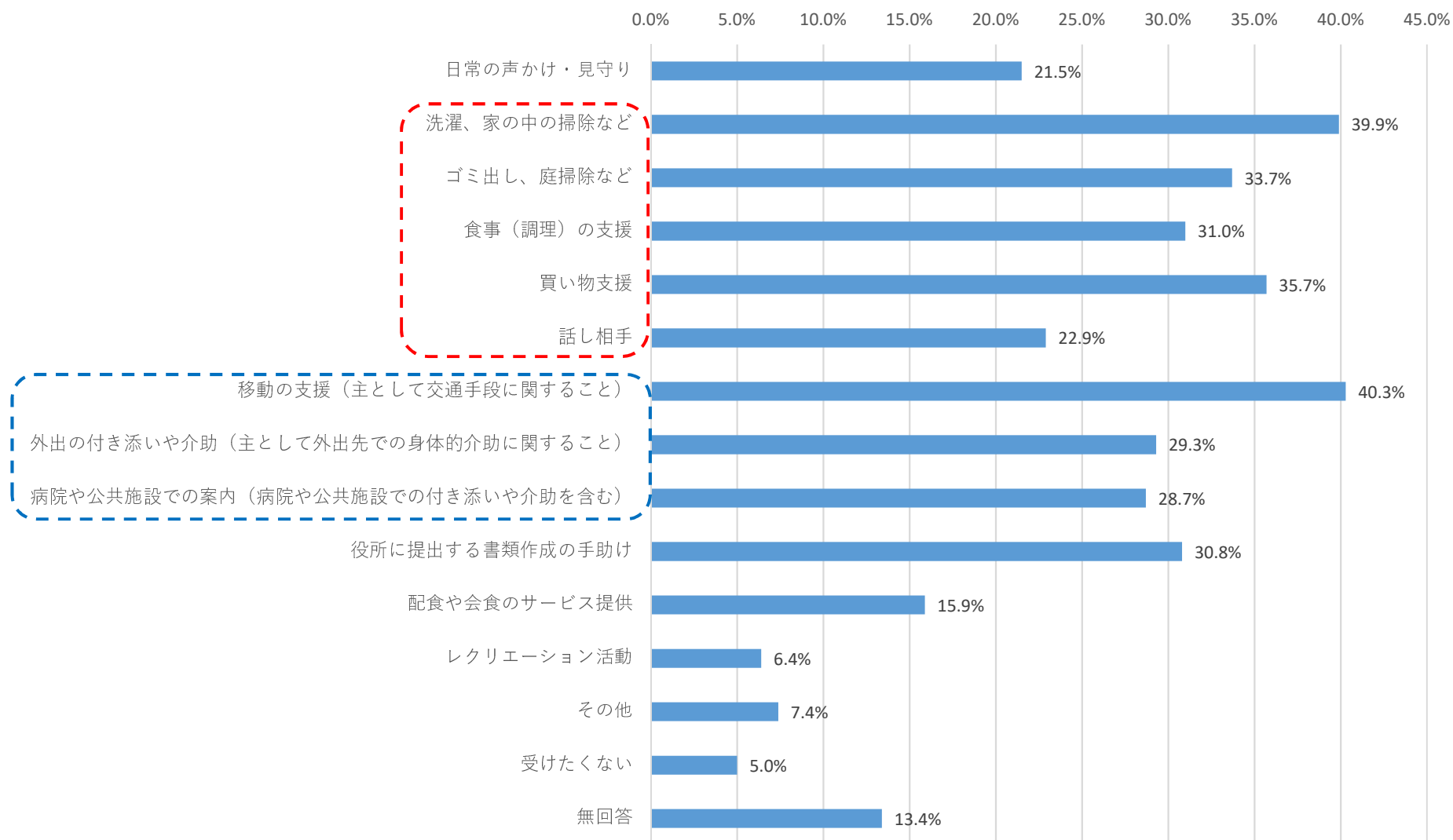
## (要介護認定者※)

※介護保険サービスを利用されている方のみ回答



- 生活の変化として最も多いのが「E 家族の介護の負担が軽減された」で36.2%である。
- 自身の生活における行動の変化（グラフのA、B、C）を実感している回答者は2割～3割未満にとどまり、「変わらない」という回答の方が上回る。居宅サービスの利用が、行動の変化をもたらすまでには至っていないといえる。

## (要介護認定者)



- 「移動の支援」「洗濯、家の中の掃除など」「買い物支援」など、身の回りのことに対する生活支援のニーズが多い。